

とちぎの子どもの「確かな学力」向上のために

～平成28年度全国学力・学習状況調査結果から～

平成28年11月 栃木県教育委員会

この資料は、平成28年度全国学力・学習状況調査の結果について、栃木県(公立)と全国(公立)との比較から分かる特徴をまとめたものです。本資料を活用して、「教科に関する調査」や「質問紙調査」の結果から見られる県全体の成果と課題を把握するとともに、とちぎの子どもの「確かな学力」の向上に向けた指導改善にお役立てください。

1 教科に関する調査の結果から

(1) 各教科の平均正答率

中学校の国語A・Bを除く全ての教科で、全国の平均正答率を下回っており、特に、小学校の国語A、算数A・Bは、2ポイント以上低い結果となっています。

基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させるとともに、習得した知識・技能を活用して自ら考え、まとめ、表現する学習活動を充実させていきましょう。



○ 本県の平均正答率

〈小学校第6学年〉

()内は全国(公立)との差

問題	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28
国語A	68.8	82.9	80.4	61.1	71.9	68.9	70.6
	-1.1	-0.4	-1.2	-1.6	-1.0	-1.1	-2.3
国語B	49.9	77.2	54.2	47.9	54.5	63.1	55.9
	-0.6	-0.6	-1.4	-1.5	-1.0	-2.3	-1.9
算数A	78.9	74.8	72.6	76.8	77.7	73.9	75.0
	+0.2	+0.6	-0.7	-0.4	-0.4	-1.3	-2.6
算数B	53.3	49.0	56.6	56.3	56.8	43.0	45.2
	-1.5	-0.3	-2.3	-2.1	-1.4	-2.0	-2.0
理科			59.5			60.0	
			-1.4			-0.8	

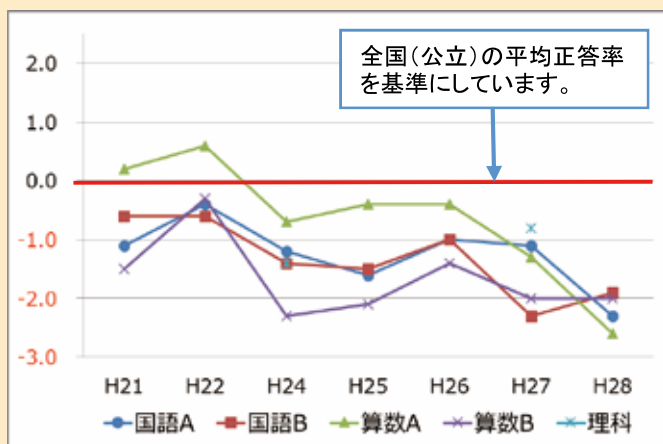
〈中学校第3学年〉

()内は全国(公立)との差

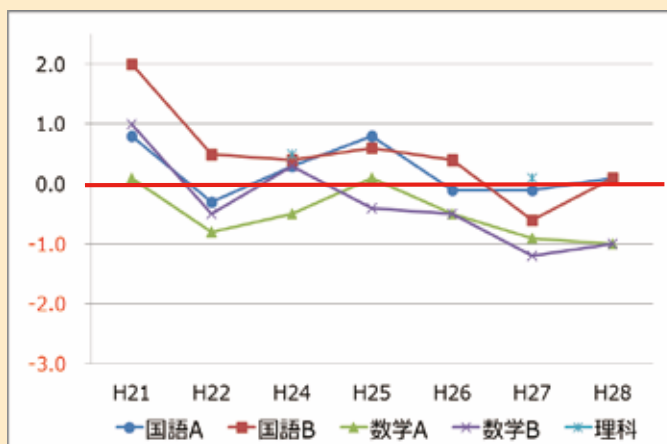
問題	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28
国語A	77.8	74.8	75.4	77.2	79.3	75.7	75.7
	+0.8	-0.3	+0.3	+0.8	-0.1	-0.1	+0.1
国語B	76.5	65.8	63.7	68.0	51.4	65.2	66.6
	+2.0	+0.5	+0.4	+0.6	+0.4	-0.6	+0.1
数学A	62.8	63.8	61.6	63.8	66.9	63.5	61.2
	+0.1	-0.8	-0.5	+0.1	-0.4	-0.9	-1.0
数学B	57.9	42.8	49.6	41.1	59.3	40.4	43.1
	+1.0	-0.5	+0.3	-0.4	-0.5	-1.2	-1.0
理科			51.5			53.1	
			+0.5			+0.1	

○ 全国(公立)の平均正答率との差(%)

〈小学校第6学年〉



〈中学校第3学年〉



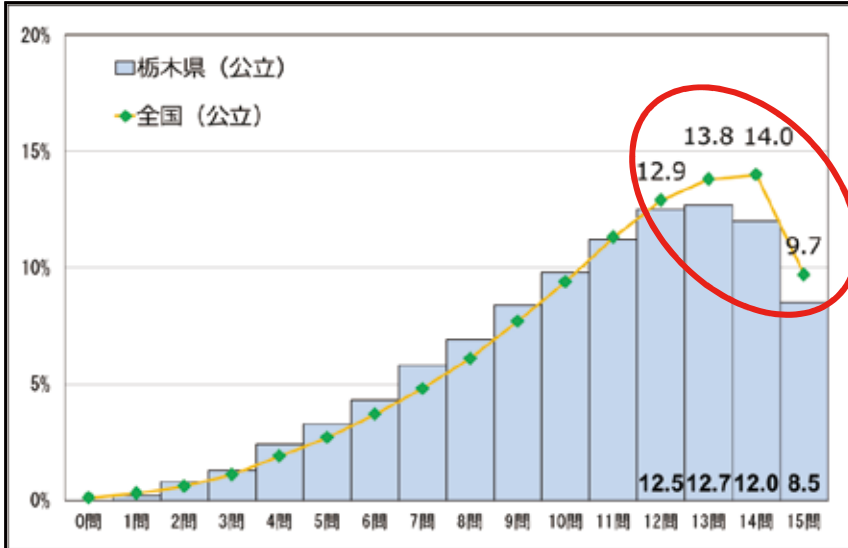
(2) 設問別調査結果

各教科の正答数分布グラフ、解答形式ごとの平均正答率、設問別正答率等を栃木県（公立）と全国（公立）と比較しながら見ていきましょう。また、右ページでは、課題が見られる設問を取り上げ、解説しています。課題解決に向けて、これからの授業をどのように改善・充実させていくかについて考えていきましょう。



① 小学校 国語A

〈正答数分布グラフ〉（横軸：正答数、縦軸：児童の割合）



〈解答形式ごとの平均正答率〉（％）

	選択式	短答式	記述式
栃木	75.2	67.5	
全国（公立）	77.2	70.0	
*全国との差	-2.0	-2.5	

正答数分布グラフを見ると、正答数が8割（12問）以上である児童の割合が、全国（公立）に比べて少ないことがわかります。

解答形式ごとの平均正答率については、選択式・短答式問題においては、いずれも、2.0ポイント以上、下回っていることがわかります。

〈設問別正答率〉

設問番号	設問の概要	学習指導要領の領域				評価の観点				問題形式			正答率		無解答率 栃木 (%)	
		話す 聞く	書く	読む	伝 達	関 心	話 す 聞 く	書 く	読 む	知 識 技 能	選 択	短 答	記 述	栃 木 (%)		全 国 の 差
1-1	漢字を読む (今日は全国的に快晴だ)				5-6 (1)ウ (ア)						○	○		76.1	-3.2	6.2
1-2	漢字を読む (お年玉を貯金する)				5-6 (1)ウ (ア)						○	○		98.6	0.1	0.2
1-3	漢字を読む (むだを省くようにする)				5-6 (1)ウ (ア)						○	○		76.6	-4.4	6.3
1-1	漢字を書く (アサガオのたねをまく)				5-6 (1)ウ (ア)						○	○		87.4	-0.1	4.9
1-2	漢字を書く (したい友人と出かける)				5-6 (1)ウ (ア)						○	○		66.4	-7.4	13.9
1-3	漢字を書く (先生にそうだんする)				5-6 (1)ウ (ア)						○	○		66.4	2.2	5.4
2	全校集会で歌う歌を決めるために、どのように話し合っているのか、話し合いの説明として適切なものを選択する	5-6 ア									○			77.0	-2.2	0.1
3	ルール説明の表現について助言した内容として適切なものを選択する		5-6 カ								○			62.3	-5.1	0.1
4	委員会を紹介するパンフレットを作るため、追加の取材をした理由として適切なものを選択する		5-6 ア								○			76.3	-1.9	0.2
5	公園案内図とパンフレットにある表とを関係付けて読み、希望に合うものを選択する			5-6 ウ							○			92.8	-0.3	0.1
6	『おばあさんの飛行機』を読んで、登場人物の人物像を説明するために、根拠となる表現として適切なものを選択する			3-4 ウ							○			61.9	-2.0	1.1
7アイ	毛筆で書いた（一）と（二）を書き直した際、注意した点として適切なものを選択する（永久）				5-6 (2)ア						○	○		80.8	-0.4	0.5
8-1	ローマ字を書く (りんご)				3-4 (1)ウ (ア)						○	○		52.0	-1.2	12.9
8-2	ローマ字を書く (あさって)				3-4 (1)ウ (ア)						○	○		38.2	-3.6	14.5
8-3	ローマ字を読む (h y a k u)				3-4 (1)ウ (ア)						○	○		46.0	-4.7	21.7

5 一文が長くて内容が伝わりにくいので、いくつかの文に分けた方がよい。

4 ゲームの手順が正しく伝わるように、接続の言葉を使った方がよい。

3 だれにでも分かるように、難しい言葉をやさしい言葉にした方がよい。

2 多くの人に伝えるので、文末を呼びかけるような表現にした方がよい。

1 ゲームの手順が分かりやすいように、内容のまとめりに番号をつけた方がよい。

【学年集会のお知らせの下書き】

学年集会のお知らせ
「めざせチャンピオン
じゃんけん列車ゲーム」
5月12日（木）、8時25分から、
体育館で行います。

◆ルール説明

二人でじゃんけんをして、負けた人は勝った人の後ろにならんで列を作り、勝った人は他の列の先頭の人を見つけてじゃんけんをし、それを全員が一列になるまでくり返して、最後まで先頭にいた人がチャンピオンです。

〈書き直したルール説明〉

① 二人でじゃんけんをします。
② 負けた人は勝った人の後ろにならび列を作ります。
③ 勝った人は他の列の先頭の人を見つけてじゃんけんをします。
④ ②、③を全員が一列になるまでくり返します。
⑤ 最後まで先頭にいた人がチャンピオンです。

3 次は、大西さんが作った「学年集会のお知らせの下書き」です。大西さんは、友達に助言をもらって、下書きの中の「◆ルール説明」を書き直しました。その助言の内容として適切であると考えられるものを、あとの1から5までのの中から二つ選んで、その番号を書きましよう。

※ カッコ内の数値は、全国（公立）

正答率 62.3% (67.4%) 無解答率 0.1% (0.2%)

【正答の条件】
 選択肢1・5と解答している。（順不同）
 ① 選択肢1「ゲームの手順が分かりやすいように、内容のまとめりに番号をつけた方がよい。」
 ② 選択肢5「一文が長くて内容が伝わりにくいので、いくつかの文に分けた方がよい。」

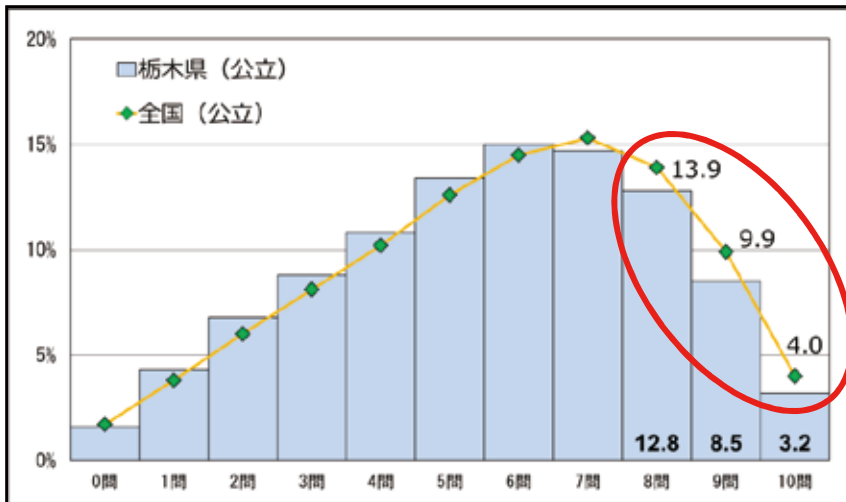
【解答類型】	栃木	（全国・公立）
1. 選択肢1・5と解答しているもの	62.3%	(67.4%)◎
2. 選択肢1と解答しているが、選択肢5と解答していないもの	17.9%	(14.9%)
3. 選択肢5と解答しているが、選択肢1と解答していないもの	9.6%	(8.7%)
9. 上記以外の解答	10.1%	(8.8%)

表現の仕方に着目して助言し合う活動では、文章の種類や特徴を捉えた上で、書く目的や意図に応じた文章構成や表現になっているかなど、視点を明確に示して話し合わせるようにしましょう。その際、修正すべき内容とともに、どのように書き換えればよいのかを具体的に伝えさせることも大切です。「カ 書いたものを発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合うこと。」については、系統的に指導していく必要があります。低学年、中学年から、互いに文章を読み合い、よさを見つけて感想を伝え合ったり、意見を述べ合ったりするなどの活動を書くことの学習課程に位置付け、文章を評価する力を高めていくことが大切です。



② 小学校 国語B

〈正答数分布グラフ〉（横軸：正答数、縦軸：児童の割合）



〈解答形式ごとの平均正答率〉（％）

	選択式	短答式	記述式
栃木	58.2		52.5
全国（公立）	59.9		54.7
*全国との差	-1.7		-2.2

正答数分布グラフを見ると、正答数が8割（8問）以上である児童の割合が、全国（公立）に比べて、少ないことが分かります。

解答形式ごとの平均正答率については、選択式・記述式問題において、いずれも全国（公立）を下回っており、特に、記述式問題では、2.0ポイント以上、下回っていることが分かります。

〈設問別正答率〉

設問番号	設問の概要	学習指導要領の領域				評価の観点				問題形式			正答率		無解答率		
		話す聞く	書く	読む	伝国	関心	話す聞く	書く	読む	知識技能	選択	短答	記述	栃木（％）		全国との差	
1一	スーパーマーケットの店長へのインタビューメモを作成した際の工夫した点として当てはまらないものを選択する	5・6 エ										○			49.7	-2.1	0.1
1二	スーパーマーケットの店長への質問の意図として適切なものを選択する	5・6 エ										○			48.5	-2.6	0.3
1三	スーパーマーケットの店長へのインタビューメモを基にして、話の展開に沿った質問を書く	5・6 エ	5・6 ウ			○	○	○				○			48.7	-1.7	7.9
2一	「早ね早起き」活動の成果について、〈図1〉の結果を基に書いた内容として適切なものを選択する		5・6 エ									○			41.0	-2.4	0.8
2二 (1)	「早ね早起き」活動の課題について、〈図2〉の結果を基に書く		5・6 エ			○		○				○			47.6	-3.8	6.1
2二 (2)	「早ね早起き」活動の課題に対する解決方法について、〈表2〉の結果を基に書く		5・6 エ			○		○				○			62.9	-1.3	6.9
2三	「早ね早起き」活動の報告文で課題を取り上げた効果として適切なものを選択する		5・6 イ									○			56.2	-2.1	3.1
3一	「パン職人」に関する本を選んだ目的の説明として適切なものを選択する			5・6 カ								○	○		75.8	-1.4	1.8
3二	「パン職人」に関する複数の資料の内容を関係付けてまとめたものとして適切なものを選択する			5・6 イ								○	○		78.2	0.3	2.0
3三	「パン職人」について、紹介したい内容をまとめて書く		5・6 ウ	5・6 ウ		○		○	○			○			50.8	-2.1	10.2

2

六年一組の高野さんの学級では、健康な生活のために「早ね早起き朝ごはん」運動に取り組んでいます。高野さんは、これまでの活動の結果を報告文にまとめ、学級のみんなに伝えることにしました。次は、高野さんが書いている【報告文の一部】です。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【報告文の一部】

○「早ね早起き」活動のまとめ

2 課題

成果があった一方、生活のリズムを保つという点で、今回の活動では改善できず、これから解決していきたい課題があることが分かりました。

課題は（図2）から分かるように、

B

この課題を解決するためには、テレビやゲームの時間、メールなどをする時間、そして「健康せんげんカード」の記録方法について考える必要があることが（表2）から分かります。

3 解決方法

そこで、わたしたちは多くの人を取り組める次のような解決方法を考えました。

C

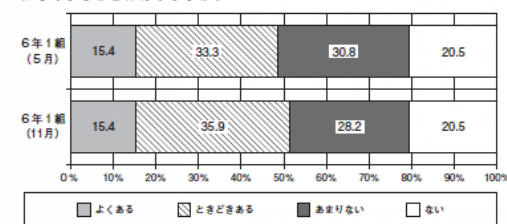
・休みの日にも「健康せんげんカード」に記録をつけるようにする。
 ・今日は、これらの解決方法に取り組んでいきたいと思えます。

○「朝ごはん」活動について

（報告文が続く）

〈図2〉

次の日に学校がない日は、学校がある日に比べて、ねる時刻が2時間以上おそくなることはありますか。



〈表2〉

ねる時刻が2時間以上おそくなる理由は何ですか。（いくつ答えてもかまいません。）（6年1組 11月）

夜おそくまでテレビを見たり、ゲームをしたりしているから。	20人
夜おそくまで友達とメールなどをしているから。	14人
休みの日は「健康せんげんカード」に記録しなくてもいいから。	10人
家族のみんなも起きているから。	4人
その他	7人

〈表1〉

早ねをするようになった理由は何ですか。（いくつ答えてもかまいません。）（6年1組 11月）

保健室の先生のお話から、すいみんが成長に大事だと分かったから。	23人
毎日体を動かしたら、早くねられるようになったから。	14人
「健康せんげんカード」に記録するから。	9人
早ねを毎日続けるようにしたら習慣になったから。	8人
早ねをしたら授業に集中できるようになったから。	5人
その他	11人

二 高野さんは、「2 課題」と「3 解決方法」について書こうとしています。次の(1)と(2)の問いに答えましょう。

(1) 高野さんは、「2 課題」について（図2）を用いて書こうとしています。

（条件）

○（図2）の結果から考えて書くこと。

○ 書き出しの言葉に続けて、四十文字以上、六十文字以内にまとめて書くこと。なお、書き出しの言葉は、字数にはふくまない。

B

B

※ カッコ内の数値は、全国（公立）

【正答の条件】

次の条件を満たして解答している。

- 〈図2〉の結果から考えられることを書いている。
- 書き出しの言葉に続けて、40字以上、60字以内で書いている。

正答率 47.6% (51.4%)

無解答率 6.1% (6.7%)

【解答類型】

- 条件①、②を満たしているもの
- 条件①は満たしているが、条件②は満たしていないもの
- 上記以外の解答

栃木 (全国・公立)
 47.6% (51.4%)◎
 1.3% (1.4%)
 44.9% (40.6%)

「全国学力・学習状況調査の4年間の調査結果から今後の取組が期待される内容のまとめ【小学校編】（国立教育政策研究所 平成24年）」では、「書くこと」において、「調べて分かった事実に対する自分の考えを、理由や根拠を明確にして書くこと」を課題の一つとして示しています。

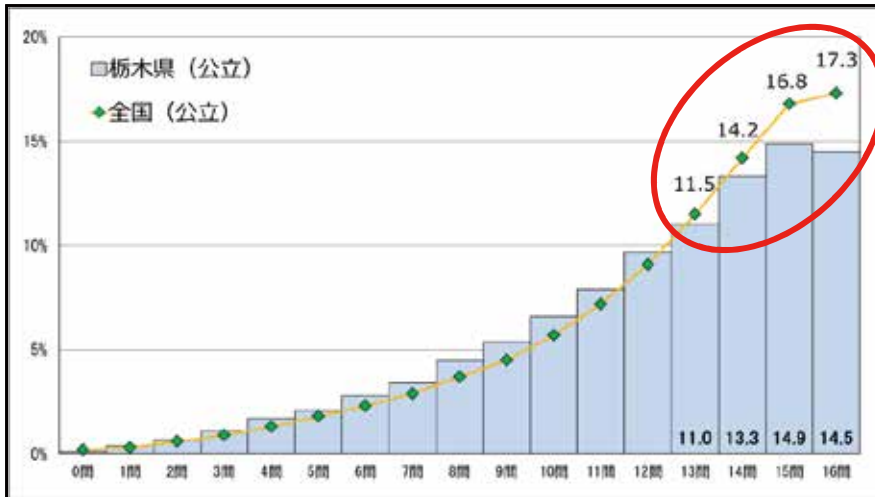
活動報告文を書かせる際には、「自分の伝えたいことと合う図表やグラフなどを活用することで、説得力が生まれること」を自覚できるように学習活動を意識して行っていくことが大切です。また、図表やグラフを用いて、自分の考えを書く活動では、自分が選んだ図表やグラフが伝えたいことに合っているかを考えてから、読み取ったことや自分の考えを相手に伝えるように分かりやすくまとめて書かせるように指導することが大切です。



③ 小学校 算数A

〈正答数分布グラフ〉（横軸：正答数、縦軸：児童の割合）

〈解答形式ごとの平均正答率〉（％）



	選択式	短答式	記述式
栃木	73.2	75.8	
全国（公立）	75.8	78.5	
*全国との差	-2.6	-2.7	

正答数分布グラフを見ると、正答数が8割（13問）以上である児童の割合が、全国（公立）に比べて少ないことがわかります。

解答形式ごとの平均正答率については、選択式・短答式問題において、いずれも、2.0ポイント以上全国（公立）を下回っていることがわかります。

〈設問別正答率〉

設問番号	設問の概要	学習指導要領の領域				評価の観点				問題形式			正答率		無解答率
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	関心	考え方	技能	知識理解	選択	短答	記述	栃木 (%)	全国との差	栃木 (%)
1 (1)	$\square \div 0.8$ の商の大きさについて、正しいものを選ぶ	5A (3) アイ							○	○		60.9	-3.9	0.9	
1 (2)	$2.1 \div 0.7$ を、除数が整数になるように工夫して計算するとき、ふさわしい数値の組み合わせを書く	4A (3)E 5A (3) イウ						○		○		64.2	-4.3	0.4	
1 (3)	小数の除法の結果を、乗法を用いて確かめるとき、当てはまる数値の組み合わせを書く	3A (4)イ 4A (3)E 5A (3) イウ						○		○		86.4	-1.5	1.1	
2 (1)	$905 - 8$ を計算する	3A (2)ア						○		○		90.5	-0.4	0.4	
2 (2)	$4.65 + 0.3$ を計算する	4A (5)イ						○		○		74.3	-2.8	0.5	
2 (3)	$18 \div 0.9$ を計算する	5A (3)イ						○		○		72.6	-5.1	1.4	
2 (4)	$(2/9) \times 3$ を計算する	5A (4) ウカ						○				86.6	-0.4	2.2	
3 (1)	二つの数の大小関係を表す不等号を書く	2A (1)イ 3A (1)						○		○		96.4	-0.3	0.5	
3 (2)	7.1, 7, 7.01 の中で一番小さい数と、一番大きい数を書く	4A (5)ア						○		○		69.0	-5.1	0.3	
4	8m^2 に 14 人座っているシートについて、 1m^2 当たりの人数を求める式を書く	5B (4)ア						○		○		71.1	-0.9	4.8	
5	三角形の底辺に対応する高さを選ぶ	5B (1)ア						○	○			80.1	-1.9	0.9	
6	4枚の三角定規でつくることのできる形を選ぶ			1C (1) 2C (1)イ 3C (1) アイ 4C (1)イ				○		○		78.9	-0.7	0.8	
7	直方体において、示された面に垂直な面を選ぶ			4C (2) アイ				○	○			74.1	-3.9	2.5	
8	テープ全体の長さを基にしたときの赤い部分の長さの割合が、一番大きいものを選ぶ			5D (3)				○	○			71.8	-2.6	1.6	
9 (1)	前に 10 人、後ろに 19 人並んでいることを基に、列に並んでいる全体の人数を求める式と答えを書く	1A (1)イ 1A (2)ア		1D (1)				○		○		76.1	-4.1	4.0	
9 (2)	定員と乗っている人数の割合を、百分率を用いた図に表すとき、当てはまる数値の組み合わせを書く			5D (3)				○		○		47.0	-3.9	5.1	

算数A 1 (1)

〔第5学年〕A数と計算(3)

課題: 除数が1より小さいとき、商が被除数より大きくなることを理解していること。

(1) $\square \div 0.8$ の商の大きさについて考えます。 \square には0でない数が入ります。
下の1から3までの中から、正しいものを1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 $\square \div 0.8$ の商は、 \square より大きくなる。
- 2 $\square \div 0.8$ の商は、 \square より小さくなる。
- 3 $\square \div 0.8$ の商は、 \square と同じになる。

※ カッコ内の数値は、全国(公立)

正答率 60.9%(64.8%)
無解答率 0.9%(1.3%)

【解答類型】

栃木(全国・公立)

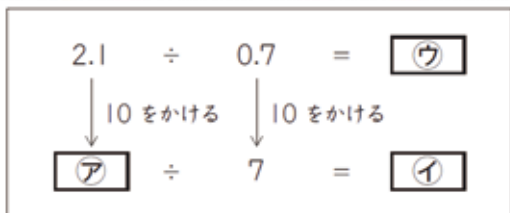
1. ①($\square \div 0.8$ の商は、 \square より大きい) 60.9 (64.8)◎
2. ②($\square \div 0.8$ の商は、 \square より小さい) 33.5 (29.3)
3. ③($\square \div 0.8$ の商は、 \square と同じ) 4.5 (4.3)
9. 上記以外の解答 0.2 (0.2)

算数A 1 (2)

〔第4学年〕A数と計算(3) 〔第5学年〕A数と計算(3)

課題: 除数と被除数に同じ数をかけて(小数) \div (小数)を(整数) \div (整数)に置き換えても、商は変わらないことを理解していること。

(2) $2.1 \div 0.7$ を、「わられる数とわる数に同じ数をかけても商は変わらない」というわり算の性質を使って、次のように計算します。



上のア、イ、ウに入る数を書きましょう。

正答率 64.2%(68.5%)
無解答率 0.4%(0.4%)

【解答類型】

栃木(全国・公立)

1. ㊦21、㊦3、㊦3 64.2 (68.5)◎
2. ㊦21、㊦3、㊦0.3 25.3 (22.8)
3. ㊦21、㊦3、㊦0.03 0.9 (1.0)
4. 類型1~3以外で、㊦と㊦に同じ数 1.0 (0.8)
5. 類型1~4以外で、㊦に3 1.7 (1.3)
9. 上記以外の解答 6.5 (5.1)

算数A 2 (3)

〔第5学年〕A数と計算(3)

課題: 小数の除法「(整数) \div (小数)」の計算をすること。

(3) $18 \div 0.9$

正答率 72.6%(77.7%)
無解答率 1.4%(1.1%)

【解答類型】

栃木(全国・公立)

1. 20 72.6 (77.7)◎
2. 2 16.1 (12.4)
3. 0.2 7.1 (6.1)
4. 2、0.2以外の位取りの誤り 0.0 (0.1)
5. 除数と被除数を逆にして計算 0.2 (0.1)
9. 上記以外の解答 2.5 (2.5)

計算の指導では、計算の結果を適切に見積もることができるようにすることが大切です。そのためには、場面や状況に応じた見積りの経験を豊かにしたり、計算の結果を具体的な場面に当てはめて吟味したりする活動の工夫が考えられます。また、計算で大きな誤りを防ぐためには、結果を見積る習慣とともに、計算の結果と見積りの結果が大きく異なっていないかを振り返って確かめる習慣を身に付けさせることが大切です。

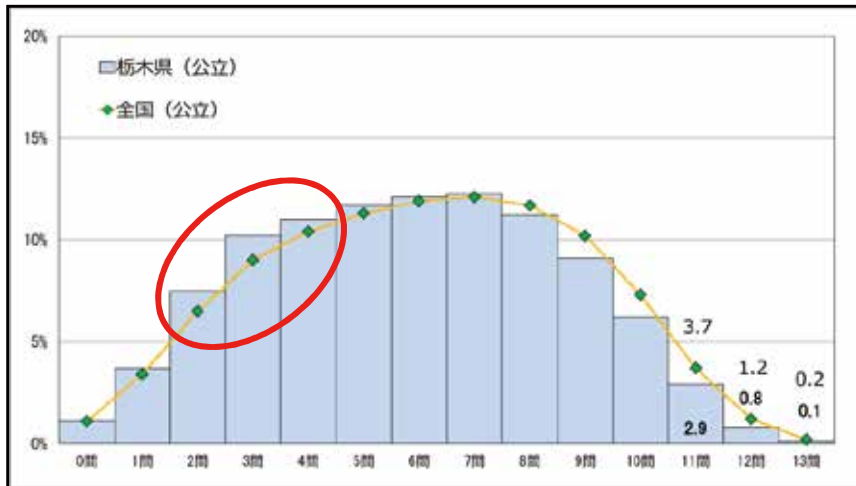
小数の除法の計算では、除数と被除数に同じ数をかけても、除数と被除数を同じ数でわっても商は変わらないという除法の性質を理解させるとともに、その性質に基づいた計算の仕方と結び付けて考えられるようにさせることが大切です。



④ 小学校 算数B

〈正答数分布グラフ〉（横軸：正答数、縦軸：児童の割合）

〈解答形式ごとの平均正答率〉（％）



	選択式	短答式	記述式
栃木	55.4	63.9	23.8
全国 (公立)	56.7	66.4	26.2
*全国との差	-1.3	-2.5	-2.4

正答数分布グラフを見ると、正答数の多い児童の割合が、全国（公立）に比べて少なく、正答数の少ない児童の割合が多いことがわかります。
解答形式ごとの平均正答率については、短答式・記述式問題においては、2.0ポイント以上全国（公立）を下回っていることがわかります。

〈設問別正答率〉

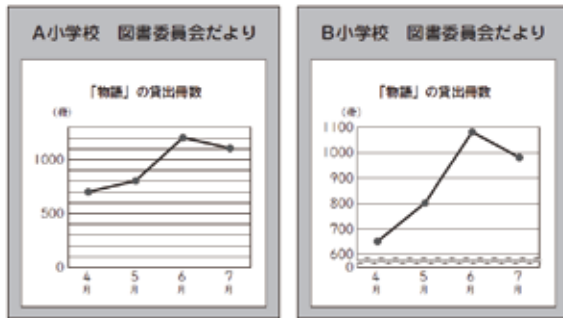
設問番号	設問の概要	学習指導要領の領域				評価の観点				問題形式			正答率		無解答率
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	関心	考え方	技能	知識理解	選択	短答	記述	栃木 (%)	全国との差	栃木 (%)
1 (1)	1 辺が 9 cm の正方形の縦と横の長さを変えたときの面積を求める式と答えとして、ふさわしい数値の組み合わせを書く	3A (3) アイ									○		91.9	-0.7	0.4
1 (2)	正方形の縦の長さを 2 cm 短くし、横の長さを 2 cm 長くすると面積が 4 cm ² 小さくなることの説明を書く										○		41.0	-4.2	4.3
2 (1)	ハードルとハードルの間が 5 m のコースの、スタート地点から 4 台目のハードルを、巻き尺の何 m のところに置けばよいか書く				3D (2)ア 4D (2)ア						○		52.4	-3.8	3.1
2 (2)	40 m ハードル走の目標のタイムを求める式に 8、1 と 4 を当てはめて、まなみさんの目標のタイムを求める式と答えを書く	3A (5)イ 5A (3)ア			4D (2)ア						○		47.6	-2.9	4.4
2 (3)	目標のタイムを求める式の中の 0.4 や 0.3 が表す意味を書く	3A (5)イ 5A (3)ア									○		13.2	-2.4	18.7
3 (1)	三つの式について、それぞれの式が何を計算しているかの説明文を選ぶ	2A (3)ア 3A (4)ア 4A								○	○		59.7	-2.9	0.7
3 (2)	縦 39 cm、横 54 cm の長方形の厚紙から、1 辺 9 cm の正方形を 24 個切り取ることができるわけを書く	2A (3)ア 3A (4)ア									○		35.9	-2.5	17.9
3 (3)	1 辺が 9 cm の正方形に内接する円をかくために、コンパスの鉛筆の先を合わせる位置を選ぶ				3C (1)ウ 5C (1)ア						○	○	74.3	-2.2	1.3
4 (1)	学校ごとの 1 人当たりの本の貸出冊数を求めるために、学校ごとの貸出冊数の合計のほかに調べる必要のある事柄を選ぶ		5B (4)ア		3D (3)						○		48.1	-0.2	1.3
4 (2)	示された二つの表だけでは判断できないものを選ぶ				3D (3)						○		69.5	-1.2	1.8
4 (3)	A 小学校と B 小学校の図書委員が表したグラフを見比べて読みとった事柄として正しくない事柄について、正しくないわけを書く				4D (4)イ						○		23.4	-1.5	12.4
5 (1)	示された形をつくることのできることを説明する式の意味を、数や演算の表す内容に着目して書く	3A (4)ア	4B (2) アイ	3C (1)ア 5C (1) アウ	3D (1)						○		5.5	-1.4	18.7
5 (2)	示された四角形を並べてできる図形を選ぶ		4B (2) アイ	3C (1)イ 5C (1) アウ							○		25.2	-0.2	7.7

算数B 4 (3)

〔第4学年〕D数量関係(4)

課題: グラフから貸出冊数を読み取り、それを根拠に、示された事柄が正しくない理由を、言葉や数を用いて記述できること。

(3) 各学校の図書委員たちは、読書活動をすすめた成果を表すために、4月から7月までの4か月間の「物語」の貸出冊数の変化の様子を、それぞれ折れ線グラフにまとめました。



けんたさんは、上の2つのグラフの、5月から6月までの「物語」の貸出冊数の変化の様子を見比べて、次のように言いました。



けんた

A小学校に比べてB小学校のほうが、5月から6月までの線のかたむきが急です。
だから、A小学校に比べてB小学校のほうが、5月から6月までの「物語」の貸出冊数の増え方は大きいです。

けんたさんが言っている、—— 部のことは正しくありません。
そのわけを、グラフから読み取れる貸出冊数に着目して、言葉や数を使って書きましょう。

※ カッコ内の数値は、全国（公立）

正答率 23.4%
(24.9%)
無解答率 12.4%
(13.2%)

※ 反応率は、小数第二位を四捨五入しているため、「◎」と「○」の反応率の合計と正答率が一致しない場合があります。

【正答の条件】

次の条件を満たして解答している。

- ① A小学校の5月から6月までの「物語」の貸出冊数が、約400冊増えていること。
- ② B小学校の5月から6月までの「物語」の貸出冊数が、約300冊増えていること。
- ③ A小学校に比べてB小学校の方が、5月から6月までの「物語」の貸出冊数の増え方は大きくないこと。

【解答類型】

解答類型	栃木（全国・公立）
1. ①、②、③の全てを書いている	19.2 (20.3)◎
2. ①、②を書いている	4.1 (4.5)○
3. ①、③を書いている、①を書いている	2.4 (2.5)
4. ②、③を書いている、②を書いている	4.0 (4.4)
5. ③を書いている	14.3 (13.7)
6. 6月の貸出冊数のみを基に判断している	5.8 (5.1)
7. グラフの目盛りの幅に関することを理由として書いている	7.4 (7.3)
8. 表1(*)の5月と6月の数値を比べて判断している	0.1 (0.1)
9. 上記以外の解答	30.3 (28.9)

(*)：表1は、大問4のリード文の中で示された「表1『各学校の月ごとの貸出冊数(冊)』」のことです。

(例) A小学校の方が物語の貸出冊数が多いから

「◎」…解答として求める条件を全て満たしている正答
「○」…設問の趣旨に即し必要な条件を満たしている正答

資料の分類整理の学習では、グラフを批判的に考察し、情報を正しく読み取り、判断した根拠を明らかにして説明できるように指導することが大切です。

指導に当たっては、一目盛りの大きさが異なる複数のグラフを比較し、変化の大きさや増え方の大きさの違いについて考察させる活動の工夫が考えられます。

また、根拠となる事柄が不足している説明を取り上げ、説明として何が不足しているのかについて話し合う活動が考えられます。その際、話し合ったことを児童一人一人が振り返って、確認する活動を行うことも大切です。

